

令和7年度 長野県諏訪清陵高等学校 学校評価表

48清陵（高校）

| | | | |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育目標 | ～時代を逞しく切り拓く創造性豊かな人間を育てていく～ | 今年度 重点目標 | ◎ 生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践する授業の追求 ○ 生徒おののの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実 ○ 生徒の相談支援体制の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止 ○ 地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現 |
| | ① 個性・能力の伸長 ② 自分で考え、積極的に発信できる高いコミュニケーション力 ③ 孟子「自反」の気概を備え、社会で活躍できるリーダーの育成 ④ SSHを軸に据え、論理的で科学的な思考力を育むことにより探究力を育成 | | |

| 重点目標 | 取組 | 評価の観点 | 担当分掌 | 達成度 (5段階) | 意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策 |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践する授業の追求 | ①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。 | ①授業アンケートにおいて、評価項目「2. 興味関心の深まり」および「3. 自ら学ぶ力の向上」の好意的評価が得られたか。 | 進路指導 | 4 | ○授業アンケート「興味関心の深まり」に対し83.3%の生徒が「深まった・大体当てはまる」と回答。また「自ら学ぶ力」に関しては85.1%の生徒が「身についた・大体当てはまる」と回答。いずれも前年度を上回り、80%以上の生徒から前向きな評価を得ることができた。■今後も、深い思考に繋がる授業を展開することができるように教員間でスキル交換をする機会を企画していきたい。 |
| | ②学校設定科目「課題研究基礎」、「課題研究」、SSH諸活動および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し、論理的・科学的視点から主体的に探究できる環境を整える。 | ②「課題研究」において、実験やフィールドワーク等で得たデータを論理的・科学的視点に基づき考察することで、ポスター発表・論文などを質的に向上させることができたか。 | SSH | 4 | ○研究グループによっては大学や企業など外部機関からのアドバイスを受けることで研究の質を高めるなど、校内外での発表で高い評価を受けることができた。◆3月特編でテーマを設定するためのヒントを示すなど早期に研究テーマを決めさせるように努力したが十分ではなかった。■進度に合わせた研修、ガイダンスを実施し研究の質を向上させていく。 |
| | ③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。 | ③学友会活動、クラブ活動に自ら積極的に係ることで、生徒が自身の満足度を高めることができたか。 | 学友会 | 4 | ○各委員会の活動や部活動の活躍を、広報委員会による活動報告や昇降口のモニターや掲示板を利用して共有し活動意欲の向上につながることもできた。◆会則、内規について見直しを要するものがあり、生徒の自治活動の面は尊重しつつ、学校運営に関わるものもあるため、職員と生徒が連携した整理・精査が必要である。■情報発信、情報共有の手段及びルールを整え、各部署や校内外との連携を強化していく。 |
| 生徒おののの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実 | ①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。 | ①講演会等実施後のアンケートにおいて、好意的評価が得られたか。 | 進路指導 | 4 | ○1年職業倫理感の育成、2年学問についての理解を深めるといった目的の下、講演会を実施することができた。対面での講演をお願いし、直接意見交換ができる場面を用意した。昨年同様、95%以上の生徒が講演会への興味関心を示し、同じく95%以上の生徒が講演会を通じて進路・キャリアに対する意識が向上したと回答。大きな成果を得ることができた。 |
| | ②実力テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、補習、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。 | ②各種テスト後の分析結果に基づき、各生徒の弱点を補うような指導をすることができたか。 | 進路指導 | 4 | ○学年会や職員会を通じて現状分析に努めた。特に校外模試の結果については、職員会で必ず学年の進路担当者が報告し、全職員で現状を共有した。また、各学年ごとに進路通信をこまめに発行し、生徒の学校での様子を情報発信するとともに、生徒の学業への意識を高めた。■クラブ活動等との両立に課題を抱える生徒に対するアプローチを強化していきたい。 |
| | ③探究的取組の実践において学力の3要素を育成するとともに、生徒の進路選択につながる大学、企業連携プログラムを実施する。 | ③SSH事業を通して、生徒が将来を見据え主体的に進路選択を行い実現することができたか。 | SSH | 4 | ○連携講座や課題研究の成果を生かそうと総合型選抜や学校推薦型選抜を利用して進学する生徒が増加した。◆希望者が少なく参加者の確保が困難な講座もあった■SSH生徒スタッフの活動を活性化させ、生徒告知の充実と参加者が増えるようにしていきたい。 |
| 生徒の相談支援体制の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止 | ①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察し、成長を支援するための指導を行う。 | ①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。 | 生徒支援 | 4 | ○カウンセラーとの相談体制は確立しており、担任や保護者からの依頼→相談のプロセスはスムーズに活用できている。○医療機関やSSWへの相談移行や協力体制も構築できており、来年度以降もチームでの支援体制を継続していく。◆早期の相談を心掛けていくが、個々の相談も長期にわたること、その人数も増加しており、カウンセラーの割り当て時間は十分とは言えない。 |
| | ②社会的マナーの向上や学校生活における全般的なモラルの向上を図る。 | ②問題行動件数、自転車事故件数を減少させることができたか。 | 生徒支援 | 4 | ○問題行動と呼べるような大きな出来事はなかったが、小さなトラブルを学年と協力しながら支援という形で解決することはできた。また、トラブルを未然に防ぐ注意喚起を定期的におこなった。○自転車事故は昨年度に引き続き大きな事故はないが、継続して事故ゼロを目指して自転車ルールの確認を中心に指導継続をする。◆ヘルメットの着用率を向上させる。■交通安全運動の際の呼びかけはもちろん、ヘルメットをしなかった時に事故が起きた場合の危険性をしっかりと訴えかけた。 |
| | ③いじめを絶対に許さない校風を維持する。 | ③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。 | 生徒支援 | 4 | ○アンケートも活用し、係・学年連携した対応体制をとることができた。いじめでなくてもそのままにせず、協力して問題解決に乗り出すことで、日常のトラブル防止につながる支援をすることができると考え、係としてももしっかり継続して関わっていく。 |
| | | ④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。 | 生徒支援 | 4 | ○生徒アンケートを中心に実態把握を進めることができた。アンケートの結果をもとに、聞き取りや調査を行ったが、いじめと判断する案件は確認できなかった。引き続き担任の面談も含め、実態把握を丁寧におこなっていく。 |
| 地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現 | ①教育活動を直接見学して学校への理解を深める機会を設ける。 | ①授業公開、学校説明会、清陵祭、課題研究発表会に多くの参加が得られたか。また、これらの行事をとおして、学校への意見を募ることができたか。 | 教務 | 4 | ○5/24(土)授業公開(中高合計685名来校(前年比5%減)、7/22(火)～24(木)学校説明会・授業公開:31校から358名(生徒230名、保護者・引率128名)来校(前年比15%減)、7/28(月)～8/1(金)保護者懇談会(全学年で実施)。10/4(土)課題研究中間発表会:外部の高校発表・見学者66名、中学生14名、保護者44名、一般14名来場(前年比41%増)。12/15(月)～19(金)保護者懇談会(1,2年全クラスで実施)。1/22(木)～24(土)保護者懇談会(3年生希望者、共通テスト自己採点を元に出願指導)。2/7(土)課題研究発表会:岡谷市カノラホールで開催、保護者、一般154名来場。○行事毎に来校者アンケートを実施。管理職が中学校訪問を行ない清陵への意見を聞くとともに広報活動を行った。意見については情報共有している。授業、生徒の様子、学習環境については、概ね高評価である。■課題研究発表会など本校が力を入れている部分では来場者が前年比増加し、一定の成果が得た。一方で、授業公開・学校説明会で前年比減少した。外部の意見を聞き、また、県立高校魅力化プロジェクトも活用して、本校の魅力を配信していく。 |
| | ②ホームページや広報物を活用し、学校の情報を広く発信していく。 | ②ホームページを頻りに更新することができたか。学校案内パンフレットやホームページをとおして中学生や地域に学校の取組を伝えることができたか。 | 教務 | 4 | ○HPの更新頻度が上がり、情報提供にプラスになっている。日々の学校の様子がわかるように改善の継続が必要である。◆「学校案内」は、昨年度より見やすく、より情報が伝わるよう紙面構成に手を加えた。中学生へのアピールとしては紙媒体は重要であると考え継続していくが、将来的には媒体の見直しも必要である。■メール配信システムを使い、翌週の予定・進路通信等各種お知らせを配信。欠席連絡にも対応でき、保護者から好評を得ている。 |
| | ③外部機関と連携し教育活動の範囲を広げていく。 | ③授業、SSH、進路指導、学友会、部活動等で外部機関と連携した活動を推進できたか。 | 教務 SSH 進路指導 学友会 | 4 | ○SSH、進路指導では外部機関と連携する場面が増え、探究活動の深化、進路への意識付け等に繋がっており、生徒にも好評である。一方で日常の授業の中での連携は進んでいないため、導入に向けた研究が必要である。○学友会では、諏訪県内の高校や中学校との連携や情報発信について、生徒が中心となり、中学生向けに進路相談会を行うなど積極的な活動から様々な提案を得ることができた。いずれも来年度に向けての準備段階となるため、次年度に引き継いでいきたい。 |

| | | |
|--------|--------------------------------------|--|
| 学校教育目標 | ～時代を逞しく切り拓く創造性豊かな人間を育てていく～ | |
| | ① 個性・能力の伸長 | |
| | ② 自分で考え、積極的に発信できる高いコミュニケーション力 | |
| | ③ 孟子「自反」の気概を備え、社会で活躍できるリーダーの育成 | |
| | ④ SSHを軸に据え、論理的で科学的な思考力を育むことにより探究力を育成 | |

| 重点目標 | 取組 | 評価の観点 | 達成度 自己評価 (5段階) | 学校評議員 評価 (5段階平均) |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|----------------------|------------------------|
| 生徒が課題発見力を育みながら、主体的・対話的で深い学びを実践する授業の追求 | ①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表、討論するような機会を多く設ける。 | ①授業アンケートにおいて、評価項目「2. 興味関心の深まり」および「3. 自ら学ぶ力の向上」の好意的評価が得られたか。 | 4 | 5.0 |
| | ②学校設定科目「課題研究基礎」、「課題研究」、SSH諸活動および教科の授業全般において、生徒が自ら課題を発見し、論理的・科学的視点から主体的に探究できる環境を整える。 | ②「課題研究」において、実験やフィールドワーク等で得たデータを論理的・科学的視点に基づき考察することで、ポスター発表・論文などを質的に向上させることができたか。 | 4 | 5.0 |
| | ③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動を実現させるために顧問が機会を捉えて助言や指導をする。 | ③学友会活動、クラブ活動に自ら積極的に係ることで、生徒が自身の満足度を高めることができたか。 | 4 | 4.7 |
| 生徒おのおのの進路実現を見据えた学習指導、キャリア教育・課題研究指導の充実 | ①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。 | ①講演会等実施後のアンケートにおいて、好意的評価が得られたか。 | 4 | 5.0 |
| | ②実力テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、補習、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。 | ②各種テスト後の分析結果に基づき、各生徒の弱点を補うような指導をすることができたか。 | 4 | 5.0 |
| | ③探究的取組の実践において学力の3要素を育成するとともに、生徒の進路選択につながる大学、企業連携プログラムを実施する。 | ③SSH事業を通して、生徒が将来を見据え主体的に進路選択を行い実現することができたか。 | 4 | 5.0 |
| 生徒の相談支援体制の充実拡大と、いじめや体罰、不登校、学校不適応の未然防止 | ①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。 | ①生徒の相談に十分に対応することで、不登校生徒数を減少させることができたか。 | 4 | 4.7 |
| | ②社会的マナーの向上や学校生活における全般的なモラルの向上を図る。 | ②問題行動件数、自転車事故件数を減少させることができたか。 | 4 | 4.4 |
| | ③いじめを絶対に許さない校風を維持する。 | ③いじめ防止のために、機会を捉えた指導をすることで、いじめ件数をゼロとすることができたか。 | 4 | 5.0 |
| | | ④いじめの早期発見につながる相談体制を十分に機能させることで、いじめの早期解決を図ることができたか。 | 4 | 5.0 |
| 地域に開かれた学校づくりと社会に開かれた教育課程の実現 | ①教育活動を直接見学して学校への理解を深める機会を設ける。 | ①授業公開、学校説明会、清陵祭、課題研究発表会に多くの参加が得られたか。また、これらの行事をとおして、学校への意見を募ることができたか。 | 4 | 5.0 |
| | ②ホームページや広報物を活用し、学校の情報を広く発信していく。 | ②ホームページを頻繁に更新することができたか。学校案内パンフレットやホームページをとおして中学生や地域に学校の取組を伝えることができたか。 | 4 | 4.7 |
| | ③外部機関と連携し教育活動の範囲を広げていく。 | ③授業、SSH、進路指導、学友会、部活動等で外部機関と連携した活動を推進できたか。 | 4 | 5.0 |